

世田谷区立三軒茶屋小学校
校長 飯田泰三 様

令和 6 年度 学校関係者評価委員会は、委嘱を受けた三軒茶屋小学校の学校関係者評価委員として以下の内容を報告します。

令和 7 年 2 月 25 日
世田谷区立三軒茶屋小学校
学校関係者評価委員会委員長
池 谷 恵 美

学校関係者評価委員会報告

アンケート調査について

今回のアンケート調査も主にWEB回収でした。保護者の回収率が昨年度より高くなっていることは、学校からはすぐ一層を利用しPTAからは、LINE等を使い数回に分けて働きかけくださった周知の成果です。しかし、地域の回収率が低くなっているため、次年度に向け回収率（三軒茶屋小学校の取組への関心）を上げる工夫が必要だと考えます。保護者周知に関しては、学校とPTAのご協力に感謝します。

三軒茶屋小学校の学校経営方針に基づいた学校の取組は、一人一人の児童が尊重し合い大切にするという考えのもと、自分で考え、他者の視点での意見を受け入れることを通して学びにつながっているようです。また、教育目標である「よく考える子ども・おもいやりのある子ども・体をきたえる子ども」に沿った授業や行事、三軒茶屋小学校独自の取組である異学年交流などを通して実施されています。

また、「みんな仲良し三茶小」というキャッチフレーズは、今年度も子ども達の学校生活で大事な部分となっている。子ども、保護者、地域の意向をもとに、よりよい学校運営になるよう、前年度の評価報告についても実現されているか。実現する方向に向いているか。ということも踏まえて審査しています。

独自項目の「給食について」は、児童が大好きな、給食について児童と保護者が、どう感じているかを聞くことにしました。

校長先生はじめ、教職員のみなさまには授業や行事、様々な取組みにご尽力いただき、子どもたちを優しく見守りご指導いただきました。本当にありがとうございました。

回収小計と回収率

保 護 者	児童数 3 9 8 名に配布	回収 3 1 0 通	回収率 7 8 %
児 童	5・6 年 1 4 9 名	回収 1 4 1 名	実施率 9 5 %
地 域	2 8 名に配布	回収 1 8 通	回収率 6 4 %
教 員	1 7 名に配布	回収 1 7 通	回収率 1 0 0 %

アンケート結果に基づき期待する改善

今年度のアンケートの調査結果についても、項目ごとの報告になります。

1. 学習について（児童：学習指導について・保護者：学習について）

今回からの児童への設問、「学ぶことが楽しい」については、全体では 7 5 . 2 % の児童が肯定的な意見となっているが、5 年生（7 2 %）児童よりも 6 年生（7 8 %）児童の方が少し数値高い。学年が上がることにより、学習の重要性を感じているのでは。と考える。

児童については、全体的に90%以上の肯定的な数値であるが、「先生は課題に（めあて）について自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」が90.7%と昨年度より若干少なくなっているが「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」が93.6%と昨年より肯定的評価が高くなっているため、重点目標である「互いを認め合い多様性を尊重し合う態度を養い、他者の考えを肯定的に受け止めながら学び合える学習の充実」にあるように、他者の視点での意見を受け入れることを通して、自らも考える大切さを学んでいる事が児童に定着し、教員も理解し実践しているからと考えられる。保護者の項目も肯定的な意見が昨年よりも高く、教職員の指導が保護者にも伝わっている。

また、「本校は、映像やタブレットを工夫し、わかりやすい授業をしている」について、児童の肯定的数値が93.6%と高いのは、ICTに関する重点目標にもある、『学ぶ内容や児童の実態に応じたICT活用の充実』に沿った取り組みを実施している事が大きいのでは。と考える。しかし、保護者の肯定的数値が68.8%と低く、分からないという回答が15.9%と昨年度よりも高い。ICTを使っの学習について、保護者への理解を深めるため、一層の周知も続けていただきたい。

児童については今後も、学校経営方針にあるように、一人一人の児童が尊重しあい、安心して学ぶことができる学校環境の実現を目指していただきたい。

2. 生活指導について（児童・保護者・地域1）

児童の「私は、学校のきまりを守って、行動している」の肯定的意見が86.6%と昨年度よりも高い。しかし、否定的意見も少なからずあるため『ルールはなぜあるのか』の『なぜ』が理解できる取組を望む。また、保護者の「本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している」の肯定的意見が79.3%と昨年度とあまり変わらないが、地域の「通学している子どもたちは交通ルールなどを守っている」の評価が88.9%と若干低くなっている事は肯定的な数値としては高くあるが、学校外での決まりを守るという児童の規範意識への指導を継続してほしいと考える。また、児童の「学校きまりを守らない児童に先生は注意している」の項目では、若干数値が低くなっている事もあり、なぜ数値が減ったかということを含めて、継続的に見守り指導していくことを望みます。

3. 学校行事（運動会・学芸会、学習発表会、宿泊行事など）について（児童・保護者・地域2）

児童の学校行事に関する項目「学校行事は楽しい」97.9%と肯定的意見が昨年度より大きく上がっている。他の項目も、おおむね85%以上の児童が肯定的に捉えている。「学校行事は達成感がある」の肯定的意見が89.3%と昨年度より上がっているのは、昨年度の評価にて、取組が通常に戻ったことで、児童が戸惑っている事があるかもしれないという、ご指摘をしたが、教職員の努力とご配慮の指導が、肯定的に捉える児童が増えたことに繋がっていると考えられる。

また、保護者と地域の各項目での肯定的意見は85%以上となり前年度よりも高評価になっている。これは、学校から行事に対する保護者や地域への参加周知がされている事や、地域への配慮が伝わっているとみられる。

4. キャリア教育について（児童・保護者）

児童の「目標をもち、その実現に向けて努力している」の肯定的意見が74.5%であり、昨年度よりも少し減らしているのは、生き方への考え方やなりたい自分を思い描く。という取組のねらいが浸透できていない児童が一定数いることから、今後の課題として考えていただきたい。「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある」は、肯定的意見73.2%と昨年度よりも高いのは、経営方針にある、『一人一人の児童理解に基づいたキャリア教育を推進する』を基に取り組んだからと思われる。また、重点目標である「『キャリア未来デザイン教育』の実現に向けて地域の教育資源を活用し、共感協働をベースとした学習の展開」として、児童が様々な職業を具体的に知る体験や地域の教育資源を生かした取組を含め様々な体験により、将来への道筋となる、自分を理解すること、人間形成、課題を発見すること、キャリアプランニングへの“力”をつけるための指導や取組を継続していただきたいと考える。しかし、保護者のキャリア教育への取組に対する肯定的評価は44.3%とあまり高くなく否定的意見は少ないが、『分からない』が33.1%と昨年度より増えている。保護者の理解を深めるための働きかけをお願いしたい。

5. 先生について（児童・保護者）

児童の「先生たちは丁寧に指導してくれている」の肯定的意見が92.9%と高評価であり、保護者も「本校は、丁寧に指導している」が90%近い数値になっている。児童の肯定的意見の「とても思う」の割合がとても高いことから、学校の経営方針全般にある、一人一人の児童の個を大切にするという考えのもと、安心して生活し学ぶことができる学校・学校環境があり、その姿勢が児童に伝わっていると考えられる。

また、児童の「先生たちに相談できる」の肯定的意見が76.9%と昨年度よりも高くなっていることから、昨年度学校評価にてお願いした、担任に相談できる環境になるように学校全体で取り組んでいることで評価が上がったと考える。今後も学校全体として、児童の相談窓口の拡充に努めていきたい。

保護者の「本校は子どもの事を相談しやすい」の肯定的意見80.6%と昨年度よりも高くなっている。昨年度、教員の環境が良くなる体制の整備をお願いしたが、学校全体で教員のフォローや負担の軽減を実施されていると見える。また、先生の顔が明るい。先生たちの雰囲気を楽しそう。職員室の雰囲気が良いと保護者からの意見があり、少しずつ教員の環境が良くなり、その事で保護者が相談しやすい環境になっていくことが望ましい。

6. 全般について（児童・保護者）

学校での生活について児童が「学校生活が楽しい」という肯定的意見が89.4%と昨年度よりも高くなっている。また、「学校が好き」の肯定的意見が80%以上と昨年度とあまり変化ない。保護者項目でも「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」の肯定的意見が92.7%と昨年度よりもかなり高評価となっている。児童にとって一日の大半を送る学校生活が楽しいと感じることができているので、この環境を次年度も作れるように取り組んでいきたい。

また、自宅学習やeラーニングでの学習についても児童の肯定的意見73%は昨年度(60.5%)よりもかなり高く、児童の家庭学習を行うという意識が高くなっているように見受けられる。

保護者項目「本校の教育活動に満足している」の肯定的意見が79.3%と昨年度より評価が高く、否定的な意見と「分からない」という意見が昨年度よりも下がっている事は保護者の学校への関心が少しずつ向けられていると思われる。一層の保護者への周知をお願いしたい。また、学び舎での幼少中の連携については、児童も保護者も少しずつ肯定的な評価が上がっていることは、良い傾向である。

また、児童は一人一人を大切にするという考えのもと、自分で考え、他者の視点での意見を受け入れ学んでいる。校長先生はじめ、先生方の心に響く一生懸命なご指導を受け、今年度も多くの児童が、「学校が楽しい」「学校が好き」と思っていることは、学校生活は充実している。

7. 学校からの情報提供について（保護者・地域3）

保護者項目、地域項目ともに、学校の様子や取組への肯定的意見が高い。ホームページや学校だより地域への案内などの成果として保護者と地域が目、学校に向いていると考えられる。

地域項目「学校公開や道德地区公開講座などで学校の様子がわかる」が100%と肯定的意見が高い。保護者、地域ともにホームページやすぐーるなどで、学校の様子がわかり、情報の提供がされているとの肯定的意見が高いところから、ホームページを1日に3本以上上げるなど、学校の情報への発信の努力が見える。しかし、区立中学（学び舎）の情報提供への保護者の肯定的意見が低いので、引き続き情報の発信の努力を願う。

8. 学校運営について（保護者・地域4）

学校の取組の基礎である重点目標について、保護者項目の「本校は保護者に学校の重点目標を伝えている」での肯定的意見が69.5%と本年度も低めであるが、「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」の肯定的意見が86%と高い、校長先生や教職員の児童への姿勢は伝わっているので、重点目標の表記が保護者にはわかりづらくなっている可能性があると考え。情報発信の仕方を再度検討していただきたい。だが、地域項目「学校の重点目標が明確である」の肯定的意見が94.5%と昨年度より高くなっているのは、地域への発信の成果といえる。

9. 家庭と学校との連携について（保護者）

「私は、今年度の学校重点目標を理解している」項目の肯定的意見が43.6%と昨年度よりもさらに低くなっている。昨年度も課題であったが、先の学校運営の保護者項目「本校は、保護者に学校の重点目標を伝えている」の肯定的意見が低いことから、重点目標への保護者の理解が昨年度からなかなか進んでいないことがうかがえる。重点目標の伝え方の工夫を検討していただきたい。

また、「私は、学校公開にすすんで参加している」の肯定的意見は昨年度より高いが、「私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している」の肯定的意見は、若干少ない。

学校行事は行事により参加率が違うと思うが、PTA行事や地域行事への実際の参加率は低いと聞く。しかし、PTA行事では、行事への協力を申し出る保護者の数も増えているとの事だが、その行事を引っ張る人が少なくなっていると聞く。昨年度もご指摘したように、受動的な方が多い傾向があるため、保護者がPTA行事や地域行事にも目を向けてもらえるように、学校行事の情報と共にPTAや地域の取組の発信を根気よく続けていっていただきたい。

10. 地域との連携について（保護者・地域5）

地域との連携について、保護者の肯定的意見は少しずつだが増えている。しかし「分からない」も多いため、地域と学校の連携を保護者に理解してもらうよう引き続き発信をお願いしたい。

地域項目「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」が55.6%「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」61.2%と昨年度よりもかなり低くなっている。学校協議会や学校運営委員会の地域への周知の仕方を検討するとともに、学校協議会の開催の時期など検討していただきたい。この学校関係者評価の回収率も低いため、学校協議会を学校関係者評価の時期の前に設定するなどの、工夫を望む。

11. 学校の安全性について（保護者・地域6）

「本校（学校）は安心・安全な学校づくりを進めている」の保護者の肯定的意見が87.9%と増えている。本年度は、外壁の工事等で学校施設の安全に対する取組が目に見えているからと考える。また、地域の2項目とも高い数値になっている。保護者項目「本校は、自然災害の対応を子どもや保護者に提供している」の肯定的項目が81.6%と高い数値となっている。学校の安全教育に保護者が信頼をもって見ているといえる。昨今の大規模災害での状況を踏まえて、次年度も肯定的意見がもっと高く出るよう学校の努力を望みます。

◎給食について（児童・保護者）

独自項目では、三軒茶屋小学校は近隣他校よりも学期中の給食の開始が遅く、終わるのが早いとの声があり、『給食の回数や満足度について』を設問にした。給食の回数については児童も保護者も現在の状況で満足しているととれる。また、給食への満足度も児童、保護者共に肯定的な意見が多く給食は充実しているととれる。今後も栄養いっぱいの美味しい給食を期待する。

教員の自己評価について

教職員のみなさんの自己評価は、昨年度の厳しい自己評価から、全体的に肯定的評価の値が大幅に高くなっている。今年度も、教職員に対する児童や保護者の肯定的評価が高いため、教職員と児童、保護者との信頼関係がますますよくなっていることがわかる。教職員は、自信をもって児童と保護者に向き合うことができるのでは。と考える。

「重点目標を日常の指導に取り入れている」での肯定的自己評価は100%と昨年度より大幅に高くなり、学校の根幹である重点目標を教員が理解し児童へ指導することが大切であるため、今回の自己評価が高くなったことについては、管理職と教員の関係が、より良くなっている事がわかる。

また、「校内研究は、授業力向上、授業改善につながっている」の肯定的評価が100%と昨年度よりも著しく上がっている。

「教職員は、保護者からの相談には、いつも誠実に対応している」の肯定的評価が100%となっている。保護者項目の「本校は、子ども他の事を相談しやすい」児童項目の「先生は達に相談できる」の肯定的自己評価が二つとも高いため、教職員への児童や保護者からの信頼は高い。

学び舎による小学校・中学校の連携についてや、キャリア教育での進路や職業の情報提供、キャリアパスポートの有効活用などの評価が、「あまり思わない・思わない」の回答が多くなっているため、先生方の自己評価は厳しいところがある。しかし、児童項目による、キャリア教育については少しずつだが児童の理解についても上がっている。

昨年度「管理職は、教職員が働きやすい環境改善に向けて努力している」の肯定的評価がかなり低かったため、管理職への教職員の働きやすい環境の改善と対話や理解を求めた。今回、肯定的評価が94%と大幅に高くなっているのは、管理職と教職員の相互の理解が良くなり、教職員のやる気が児童や保護者に見えていると考える。また、「教職員は、一人一人が組織的に教育活動に取り組んでいる」の肯定的評価は昨年度も高かったが、より高い数値になっていることから、子ども達の教育環境がより一層よくなるように期待している。